

(11) 沖縄



沖縄地域では、景気は着実に回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は増加している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回(平成27年2月)	今回(平成27年5月)	
住宅建設	減少	大幅に減少	

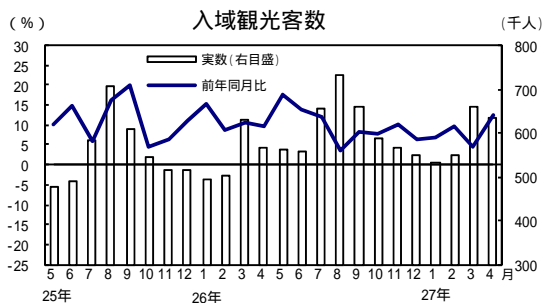
1. 観光及び企業動向

(1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数のうち、国内客については、1月は、年末年始・連休の旅行需要で好調であったこと、旅行会社主催のイベントや桜祭りもあったこと等から前年を上回った。2月は、前年と比べ天候の影響が少なく、プロ野球等の誘客効果もあったものの、スカイマーク運休の影響等により前年比微増となった。3月は、春休みの旅行需要等により関西や福岡方面の入込は順調であったが、東京及び名古屋方面は一部航空路線の運休等の影響が続いたため、前年比微減となった。

外国客については、1月は、単月で初めて3万人を超えた韓国を中心に増加し、前年を上回った。2月は、春節の旅行需要により主要方面からの入込が増加したこと等から、前年を上回った。3月は、航空路線の拡充やクルーズ船の寄港回数の増により、主要方面からの入込が好調であったこと等から、前年を上回った。

主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテル、リゾートホテルともに前年同期を上回っている。



入域観光客数等の動向

(単位: 千人、%)

	26年7-9月	10-12月	27年1月-3月	27年4月
入域観光客数	2,044	1,700	1,740	635
(前年比)	7.7	8.1	6.9	12.3
ホテル稼働率	86.9	73.9	81.4	-
(前年差)	2.6	3.5	2.4	-

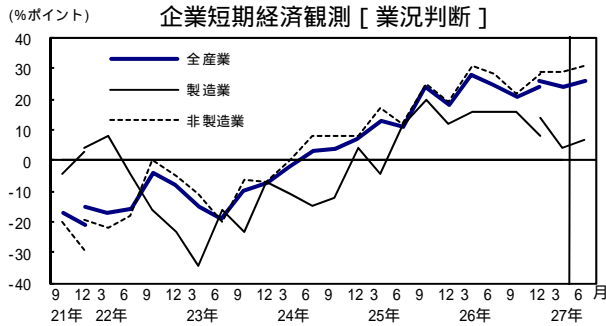
(備考) 1. 入域観光客数は中総県観光政策課調べ。

2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

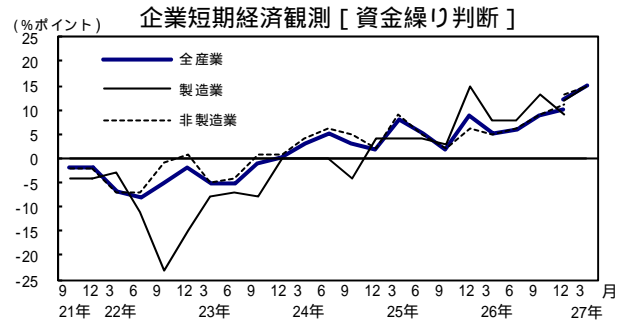
3. ホテル稼働率の前年差については、内閣府にて算出。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

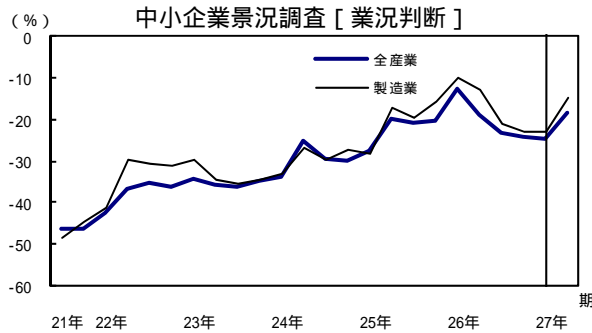
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年6月は予測。
21年12月及び26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月及び26年12月は新・旧基準を併記。

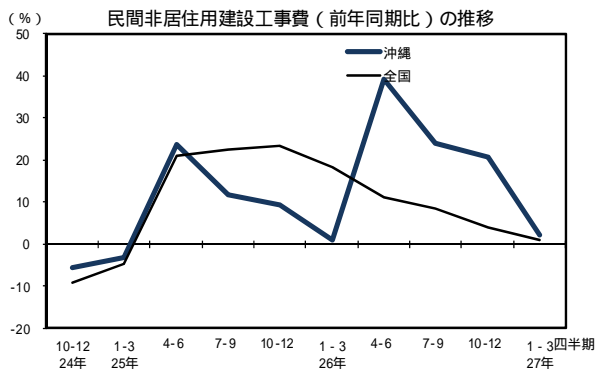


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のD I。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「外食、アパレル、家具、家電、建築関連含め取扱貨物量が増えている。また、受託単価も人件費、燃料費、車両費の増加に見合う価格となっている(輸送業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	26年度実績見込み	27年度見極
全産業	5.2(7.6)	9.7
製造業	0.4(2.2)	38.7
非製造業	6.7(9.4)	0.6

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は増加している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比0.6%減、2月は同2.5%増、3月は同0.2%増となった。

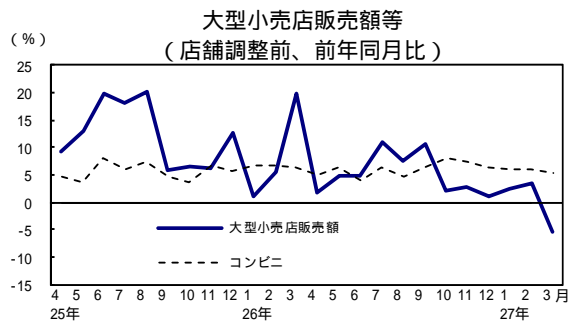
大型小売店販売額

大型小売店販売額は、1月は新規出店や改装効果に加え、福袋需要や販促効果等により、前年を上回った。2月は食料品は催事効果や販促効果等で食料品や衣料品が伸長したことから、前年を上回った。3月は新規出店や改装効果等から堅調に推移したものの、高水準であった前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (4月) [家計動向関連 (現状)]

沖縄地域の家計動向関連DIは、51.9となり前月より1.9ポイント上昇した。

「旅行の問い合わせなどは増えている。若干ではあるが前年を上回りそうである (旅行代理店)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

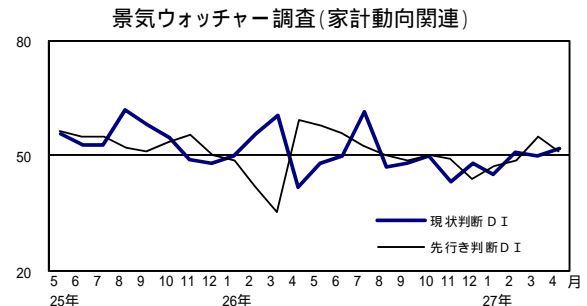
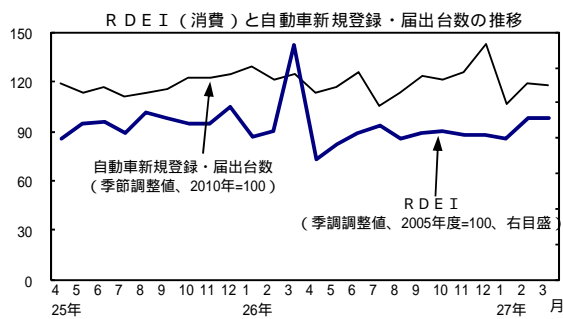


	27年1-3月	27年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	1.0	0.6	2.5	0.2
大型小売店(*2)	0.2	2.3	3.5	5.3
コンビニ(*2)	5.8	6.0	6.1	5.2
乗用車(*3)	6.2	15.7	0.4	4.3
(季節調整値)(*3)	12.0	25.4	12.0	1.0

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 大型小売店は経済産業省調べ(店舗調整前)、コンビニは日本銀行(加盟店調べ)前年同期(月)比 (%)

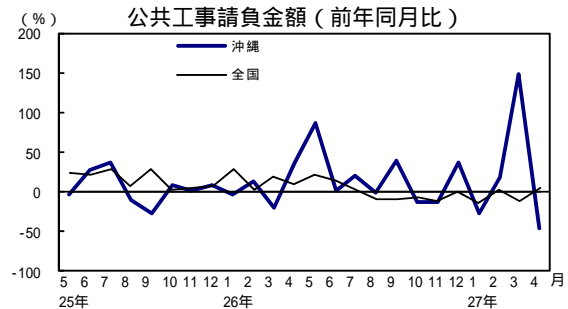
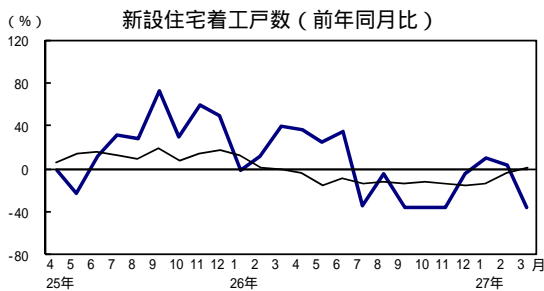
3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が前年を下回ったことから、全体では大幅に減少している。

(3) 公共投資は26年度累計でみると前年度を上回っている。

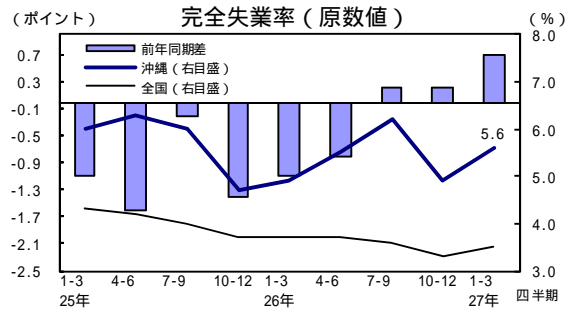
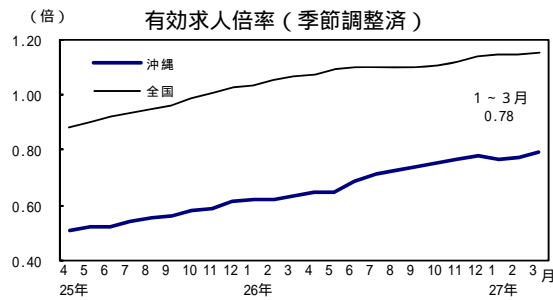


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



(備考) 沖縄県の完全失業率は、沖縄県「労働力調査」より算出。

景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

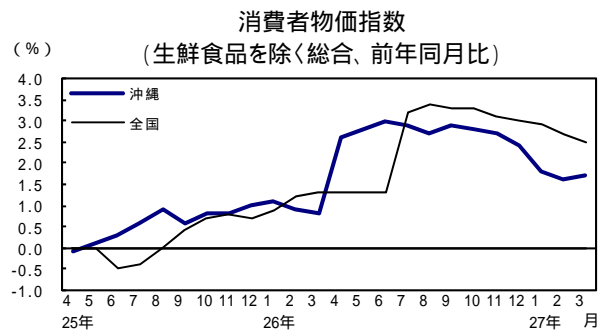
「契約社員の雇用しかしていなかった企業が、正社員雇用に切替えてきている(学校[専門学校])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年4-6月	7-9月	10-12月	27年1-3月	27年4月
倒産件数	14	18	28	22	1
(前年比)	39.1	30.8	100.0	22.2	66.7
負債総額	41	19	21	23	1
(前年比)	21.7	27.5	76.3	8.9	95.3



景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・2~3か月前と同様に、稼働率の実績においては前年同月比でマイナスとなっている。ここ2~3か月は前年実績との差が、近い値で推移している(観光型ホテル)

<先行き>

- ・仕入業者などから単価アップはまだまだ続くとの情報があり、そうなると景気は3か月後も変わらないのではないかと(スーパー)

